

更に、効率的・効果的な整備を目指して・・・

農地の状況や営農形態に応じた
「弾力的な整備」



北海道農政部

弾力的整備とは...

「弾力的整備」は、特別なことではありません。

これまでも、農業農村整備事業の実施にあたって、農家の皆さんや地域の関係機関の方々との打合せの中でお聞きした声を工事に取り入れようと取り組んできた現場レベルでの様々な創意工夫を指すものです。

国際化の進展など農業を取り巻く状況がめまぐるしく変化する昨今、農家の皆さんが、生産性や品質の向上、高収益作物の導入などに取り組もうとするときに、整備した農地を、少しでも有効に活かしていただけるよう努めることが、これまで以上に重要になっているため、今一度、この創意工夫の必要性を再認識し実践するものです。

農業農村整備事業の担うべき役割も、時代の変化とともに変化しています。

市町村や土地改良区などの方々と一緒に地域振興のことを考えながら、事業に対する地域の多様なニーズを受け止めて、より満足度が高く、効率的・効果的な整備を進めていくことが、「弾力的整備」に取り組むねらいです。

弾力的整備導入に向けた取り組み

1. 農地情報の聴き取り調査

まず「弾力的整備の導入」にあたって、農家の皆さんの意向や農地の特性等を聴き取り調査します。

その際に、単に「こうしたい」という要望だけでなく、「なぜ、そうしたいのか」「どのようなことで困っているのか」を、出来るだけ具体的にする必要があります。



2. 運用改善の検討

これまで一般的に用いてきた農地整備手法の運用の中に改善すべき点がないかを点検するために、基盤整備に関心の高い農家の皆さんからご意見等をお聴かせ頂きました。

その結果は次の表のように、導入しようとする作物や機械体系、地域ごとに異なる現場実態など多様な状況に即した整備を求める声をたくさん頂きました。

工種	考慮すべき多様な状況（代表例） ：非常に多い意見、：比較的多い意見、-：少ない意見			
	作物・品質	機械・労働力	求める耐用年 ・信頼性	現場条件 ・利用実態
区画整理	-	◆ 大型機械の作業に即した勾配修正	-	-
暗渠排水	◆ 草地利用に即した低コスト暗渠工法 ◆ 長いも・ゴボウなどの深根性作物に対応した深暗渠排水	◆ サブソイラー等の能力に応じた暗渠深	◆ 疎水材の投入幅を拡大（集水の信頼性向上）	◆ 土壌条件や利用条件に応じた配線間隔の設定
客土除礫	◆ 高品質の根菜類等の栽培に即した除礫深 ◆ 消費者ニーズに即した良質米生産のための客土	◆ ロータリーの耕起深に即した作土深	-	◆ 不良土層の存在する箇所のみ部分施工
耕作道	-	◆ 集荷車両の大型化に対応した幅員等の設定	-	-
草地施設	-	-	-	◆ 利用実態に即した家畜糞尿処理施設規模等の設計

農業農村整備は、これまでも時代のニーズに応じて内容の見直し等を進めてきましたが、このことが十分に農家の皆さんに伝わっていないことなどから、お寄せ頂いた意見の中には、次のように、すでに一般的な手法として、補助事業の対象としているものもありました。事業制度の説明は、ホームページの活用など、様々な手法を導入しながら更に充実した取り組みを進めます。

(すでに取り組まれている事例)

次のような、深水かんがいやほ場の大区画化など、きめ細やかなニーズに対応する整備も行っています。

粘質に乏しい土壌で浸透抑制のために行う客土

水田からの浸透量を抑えるために実施する粘質に富む土の客入。(ただし、遠方より土の運搬が必要な場合など、効果に比べてコストが高くなる場合は対象外)

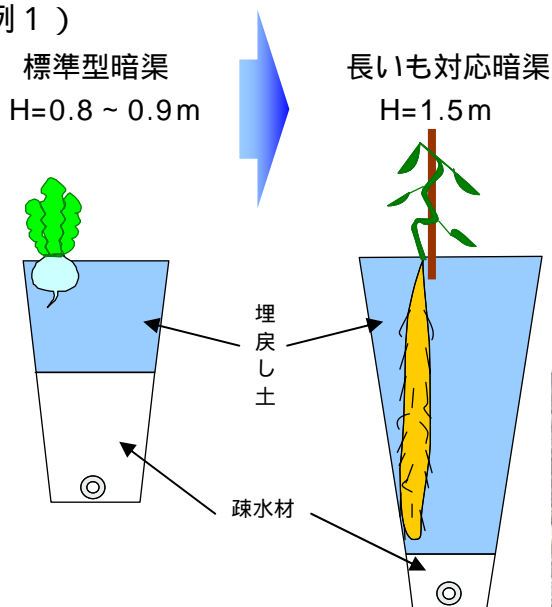
客土に伴う畦畔高の確保

畦畔の高さに余裕のないほ場に客土を実施する場合に行う、客土厚分の畦畔の高上げ。

長いも・ごぼうなどの深根性作物に対応した深暗渠

作物の生育特性に合わせた暗渠排水の設計(掘削深の見直し)。

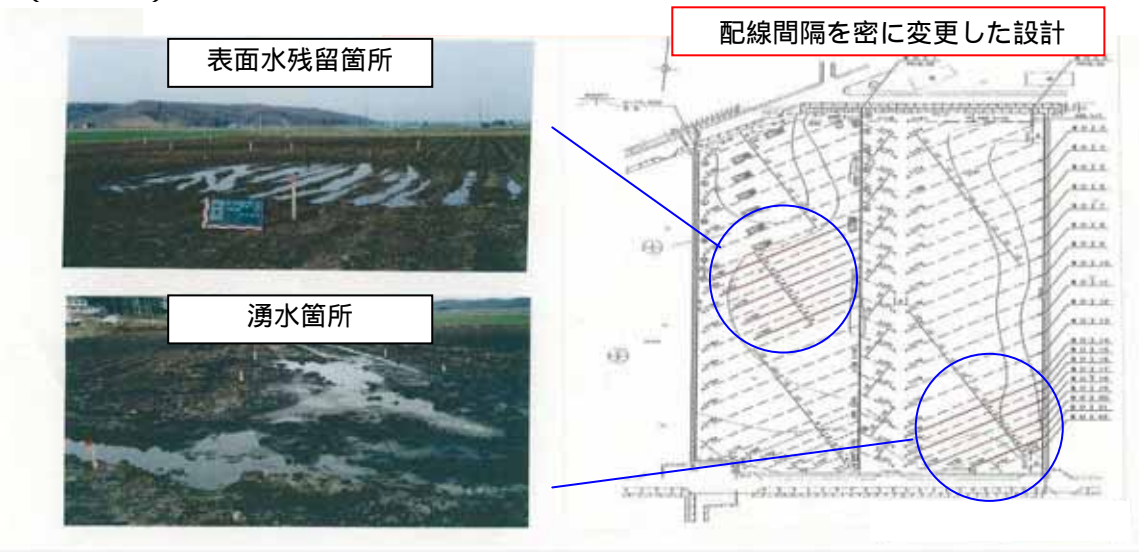
(事例1)



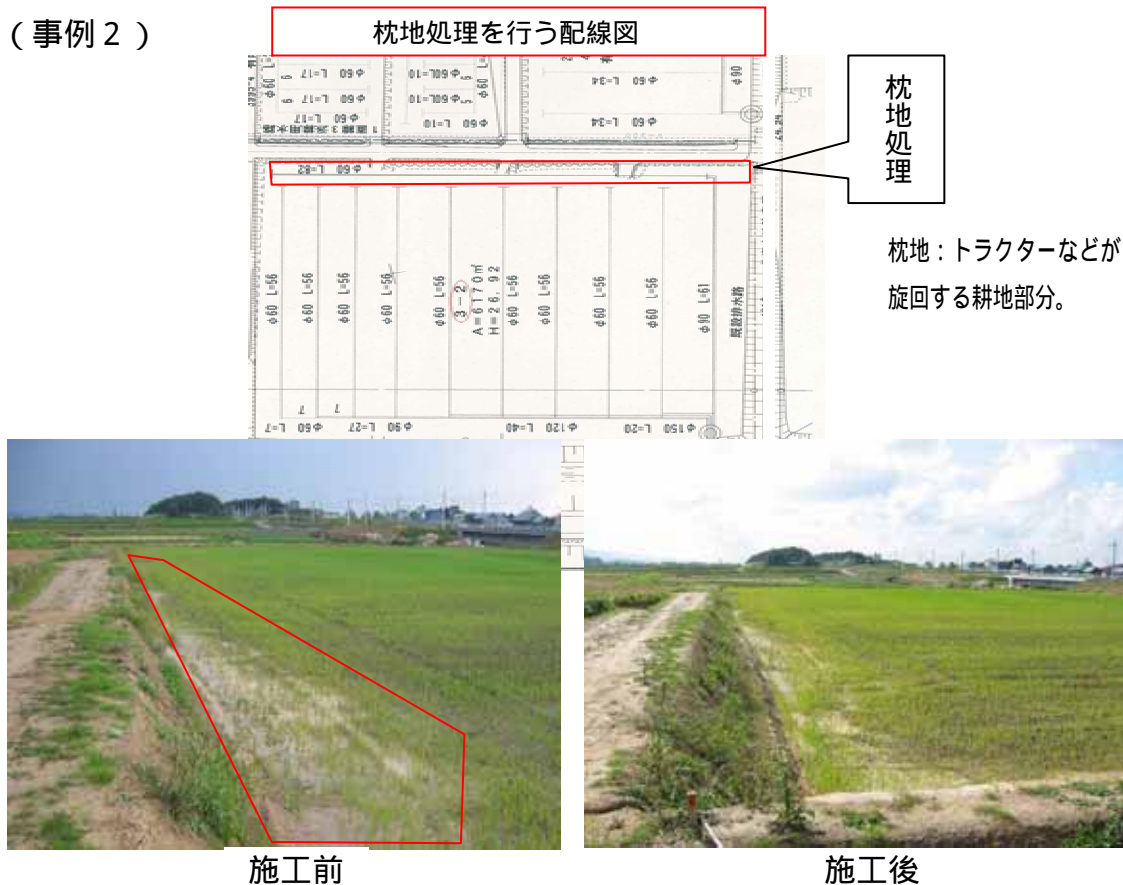
土壌条件や利用条件に応じた配線間隔の設定

特に湿気った部分の暗渠の配線間隔を狭める設計や、トラクターの旋回により排水不良になった部分を集中的に改良する枕地処理暗渠。

(事例1)



(事例2)



小排水路の埋め立てによる大区画化

暗渠整備などにより不要となった排水路を埋めて大区画化を図る簡易な整地工事。

施設園芸(ハウス)への対応

水田転作として導入する施設園芸に適した暗渠排水の設計(配線設計等)。

緊急度が高く、検討に必要な情報や所要の試験データが整理されているものから、次の事例のように運用改善に向けた検討にも取り組んでいます。

(新たな運用方法を検討し具体化した事例)

消費者ニーズに即した良質米生産のための客土

泥炭土壌は水稻栽培において蛋白含量を高めてしまうなど、良食味米生産には障害となる性質を有する。

その要因となる下層からの窒素供給を抑制（泥炭土壌の影響軽減）する対策として、土層等を改善するための客土を要望する声が寄せられた。

良食味米生産のための客土は、農業試験場をはじめとした既往の試験成績等から、その有効性が次第に明らかにされてきている。また、私費で砂質土等を米のタンパク質低減のために客入する動きも一部で見られている。適用（客土の要否判定）条件や改良目標等の新たな運用方法は、これらの実績や効果を出来る限り忠実に表現するよう留意し具体化した。

(新たな運用方法のポイント)

地域の実績（試験成績や私費客土の効果）等に即した要否判定手法等を設定
米のタンパク含有率と密接に関連する可給態ケイ酸量及び可給態窒素量に
作業性向上等と関連する粘土含有量を副次的な指標として組み合わせた要
否判定手法

地域での実績や客土後の施肥管理への影響のほか農家負担等を総合的に勘
案し客土厚は5cmを基本

過去の客土整備の履歴（客入土の性質、経過年数など）によってほ場を類
型化し要否を総合判定

客土の特徴である段階的改良計画を採用するケースに留意し改良目標を設定
効果の持続性や改良目標設定の妥当性検証のため、地域と連携し当初計画か
ら実施及び完了後まで現地調査及び農家聴き取り調査（モニタリング調査）
を継続



私費施工によるほ場状況

3. 弾力的整備の更なる推進に向けて...

「弾力的整備」は地域の実情にきめ細やかに応えるものですが、具体的にどのような対応が適切であるかといった問題の答えは、事業に関係する皆さんとともに考えていく必要があります。特に、整備の必要性を裏付ける状況（たとえば、どのような条件の時にどのような営農上の障害が発生したのかが判別できる障害発生時の状況写真や記録等）の整理や、整備後に得られた効果（作業性や収益の向上等）の検証には、これまで以上に詳細に情報提供をお願いするなど、連携を深めることが必要になります。

このような取り組みを通じて、北海道農業が持続的に発展していくために、整備した農地をよりいっそう有効に活かしていただけるよう努めていきたいと思っています。



作成：農業農村整備推進方針取組促進会議
効果的整備推進部会

連絡先：011-231-4111

農地整備課 水田畑地整備グループ 内線 27-570

農村計画課 農地計画グループ 内線 27-425

平成18年1月30日